

2026年2月18日
株式会社SVPジャパン

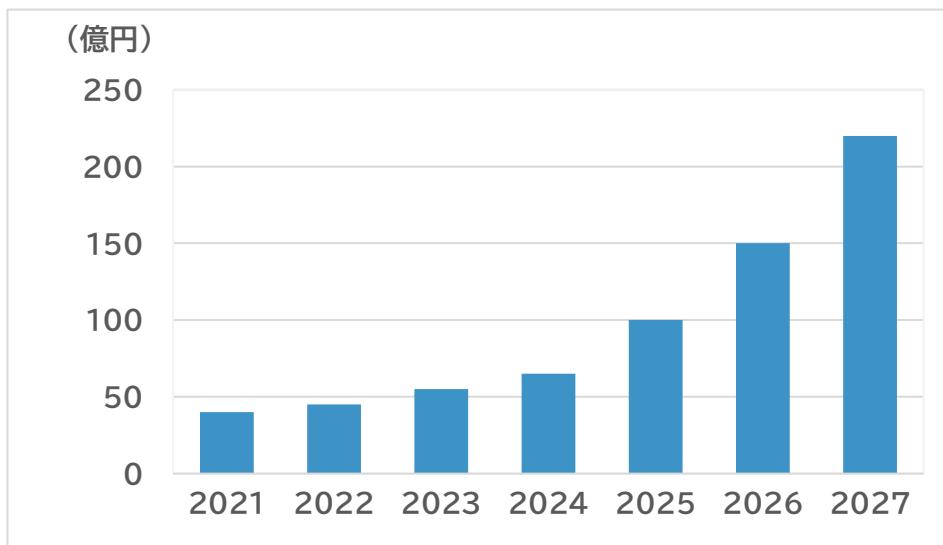
SVP注目市場分析 「調理ロボット」を公開

～人手不足を背景に拡大が期待される次世代厨房～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「調理ロボット-世界市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

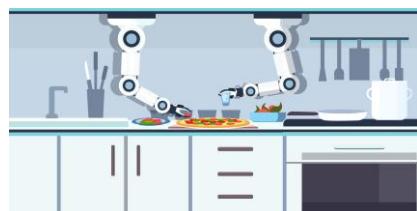
■調理ロボットの世界市場



外食産業を中心に、労働力不足や人件費高騰を背景として調理ロボットが世界的に注目を集めている。本レポートでは、注文に応じた食材選択から調理、飲料提供までを自動制御で行う業務用調理ロボットを対象に、世界市場の動向を分析した。調理ロボットは、米国のスタートアップを起点に2010年代後半から開発が活発化した新しいサービスロボットであり、欧米や中国を中心に外食チェーンでの導入が進んでいる。ピザや炒め物、ハンバーガー調理などの実用化が進み、品質や味の一貫性確保にも寄与する。市場規模は、2027年には約200億円超へ拡大すると予測する。日本でも外食チェーンやコンビニで導入が進む一方、普及には低コスト化や対応メニュー拡充が課題である。

■調理ロボットの市場概況

調理ロボット市場は、米国や中国、日本などのスタートアップが開発と導入を先導しており、現時点では売上規模が数億円規模の企業が大半を占める。中国のT-chef Technology、米国のPicnic Works、日本のTechMagicなどが有力企業として台頭している。各社の製品は、炒め物、ピザ、揚げ物、飲料調理など用途別に特化する傾向が強く、外食チェーンや商業施設、大学、病院などで導入実績を積み上げている。多くの企業はアプレス型で事業を展開し、売り切り販売に加えてサブスクリプション方式を採用するなど、導入障壁を下げるビジネスモデルが広がっている。市場は形成途上にあり、競争環境は今後さらに活発化するとみられる。加えて、大手外食企業との協業や海外展開の進展が、市場成長を左右する要因になると考えられる。



■本レポートの構成

- I. 市場の定義
 - II. 市場動向
 - III. 市場規模・予測
 - IV. マーケットシェア
 - V. 参入企業の動向
 - VI. 業界構造



[←レポート全編を見る クリック](#)

※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購読いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

3月のテーマは「生成AI」と「AIエージェント」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛎殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com